第３回安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議　会議概要

１　審議会名　　第３回安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議
２　日　　時　　平成 27 年９月９日　午前 10 時 30 分から正午まで
３　会　　場　　安曇野市役所４階大会議室
４　出席者　　木村委員、田村委員、栗田委員、内田委員、丸山委員（松岡委員代理）、川崎委員、馬場委員、石曽根委員、木下委員、宮島委員、浅川委員、伊藤委員、廣瀬委員、淺川委員
５　市側出席者　小林政策経営課長補佐、鈴木主査
６　公開・非公開の別　　公開
７　傍聴人　０人　　記者　１人
８　会議概要作成年月日　　平成 27 年 10 月 19 日

協　議　事　項　等

次第
１　開会
２　会長あいさつ
３　協議
　（１）意見交換安曇野市人口ビジョン（案）及び安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
　（２）その他
４　その他
　・次回有識者会議の日程について
５　閉会

会議
１　開会（田村副会長）　　（10：30）
２　会長あいさつ（木村会長）　　（10：31）
３　協議　　（10：35）
　（１）安曇野市人口ビジョン（案）及び安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
（会長）最初に事務局から説明していただき、その後、分からないことや事実の確認といった段取りで進めていきたいと思います。それでは事務局お願いします。
（事務局）本日はあいにくの雨模様の中、会議にご出席いただき誠にありがとうございます。本日の出席の皆様方ですが、商工会青年部松岡部長さんが御都合により欠席につき、代理で丸山副部長さんがご出席いただいております。只今市議会の 9 月定例会が開催中です。現在、一般質問が行われている状況でありますが、小林部長、関課長両名が議会対応ということでこの会議に出席することができません。ご理解をお願い申し上げます。
　さて、おかげさまで人口ビジョンの案、総合戦略の案を策定することができました。本日はこの案にご意見を頂戴いたします。経過と今後の予定について簡単に申し上げます。4 つの基本目標を達成するために、どんな施策や事業が考えられるかを、庁内の関係部署で検討するとともに、この有識者会議のご意見、市民、市内企業の皆様からのご提案、また市議会各会派からのご提案を頂戴いたしました。それぞれのご意見、ご提案につきまして、総合戦略の目標との関連性、計画期間である５年間での実現性、将来の市の財政負担見込、それぞれの視点で検討いたしました。その結果をもちまして人口ビジョン、総合戦略の素案を作成し、8 月 25 日に開催した市議会総務委員会協議会、議会全員協議会において説明をし、その後、議員からのご意見をいただくといった手続きを経て、その結果を反映し、市長が本部長を務める安曇野市まちひとしごと創生戦略本部会議にて市の案を決定しました。それが

お手元にお示ししているものです。次に、本日の会議の後の予定ですが、本市の総合戦略策定の期限を 10 月末と定めております。この日程を踏まえ、明日 9 月 10 日から 10 月 9 日までの 30 日間でパブリックコメントを実施いたします。パブリックコメント終了後、頂戴した意見について反映できるものは反映し、人口ビジョン、総合戦略の最終版とする予定です。パブリックコメントには、現在皆様のお手元にあるこの（案）を用いてパブリックコメントにかけさせていただきたいと思っております。本日の会議で頂戴するご意見については、それぞれ関係する事業担当部署に協議をし、パブリックコメント終了後の最終調整に入る予定です。以上簡単に経過と今後の予定を申し上げました。

それでは、資料の説明をいたします。まず人口ビジョン（案）をご覧ください。構成としては、「はじめに」につづいて「人口の現状分析」、「将来人口の推計」、最終的に「人口の将来展望」ということで構成しています。「人口の現状分析」までの部分は以前にご説明したものと同様ですので本日は省略いたします。「将来人口の推計」および「人口の将来展望」について要点を説明いたします。

31 ページをご覧ください。まず「４．人口の将来展望」の下に枠がございまして、ここに記載していますが、当初基本方針においては、人口ビジョンの目標年度について 2060 年度を基本として考えてきましたが、人口の推計を検討するにあたり、「国立社会保障・人口問題研究所」いわゆる社人研の推計データが 2040 年度までのデータとなっていますので、より確実性のある推計とするために 2040 年度を目標年度として人口ビジョンを作成いたしました。それでは戻っていただき、28 ページをご覧ください。目標人口の推計条件（シミュレーションの前提条件）ですが、人口減少抑制策を展開していく上で、合計特殊出生率（出生率）向上等による自然動態改善への施策や移住者増加等による社会動態改善の施策を検討していく前提がございまして、パターン①～③をシミュレーションしています。パターン①は、社人研の推計値です。パターン②は、社人研の推計に自然動態の改善いわゆる出生率の改善を加えました。内容は、国長期ビジョンの目標値を基準に、国の掲げる出生率の伸び率を本市の伸び率にも適用し、その出生率を 2040 年に 2.07 と仮定しました。この 2.07 は、人口の増加と減少が均衡する値です。これに向かい 2020 年に 1.6、2030 年に 1.8 という仮定をしました。パターン③は、パターン②に加え、社会動態の改善ということで 2020 年以降、毎年子育て世帯 15 世帯の移住を目指すという内容です。15 世帯という値につきましては、近年安曇野市へ移住をしてくる方は、多い年少ない年がございますが、大体 10 世帯くらいはおいでいただいていることが確認できています。このような実績がありますので、これから様々な施策を展開していく中で、5 年後の 2020 年以降は毎年子育て世帯 15 世帯においでいただきたいということを目標に加えました。これが社会動態の改善でございます。今申し上げましたものをグラフに示したのが 29 ページのグラフです。社人研推計がパターン①で青色のグラフ、パターン②が赤いグラフ、パターン③が黄緑色のグラフです。社人研推計と比較しますと、パターン③は 2040 年時点で約 4,600 人の人口減少を抑えられるということです。この推計では人口減少の程度を抑えるということとなります。人口をＶ字回復させるのは現実的には難しい。このような 2040 年までの推計をさせていただきました。この 3 つからどれを安曇野市の将来展望として選択したかということですが、32 ページをご覧ください。結論から申し上げますと、前述のパターン③を選択するということとなります。合計特殊出生率について説明を申し上げますと、本市が実施した子育てに関するアンケートで、実際に産み育てられる子供の数を伺ったところ、2 人と答えた方が 65%、3 人と答えた方が 16.5%でありました。この平均値をとりますと、2.078 人という数値がでました。このことから、本市の出生率の目標値を、国と同じ人口置換水準の 2.07 とすることは確実性が高いものと判断いたしまして、2040 年の目標値を 2.07、それに向かいまして 2020 年 1.6、2030

年 1.8 と設定いたしました。社会増減につきましては、本市の社会増減は概ねプラスで推移しており、その傾向は今後も継続するものと見込まれます。更に近年の移住される方の実績から、毎年 15 世帯の移住者を目指すということであり、このことから 2025 年には 91,000 人、2030 年には 88,000 人、2040 年には 83,000 人という目標を定めたということです。このページ以降は目標人口の分析になっておりますので、本日の説明は省略させていただきます。以上が人口ビジョンの説明です。

（会長）今人口推計について説明がありました。ポイントは 32 ページ 33 ページ当たりだと思いますが、いかがでしょうか、これについて疑問点や確認点はございますか。最終的には今から 25 年後の 83,000 人が目標になっていますがよろしいでしょうか。

＜意見無＞

（会長）それでは、2 番目の総合戦略の説明をお願いします。

（事務局）それでは、総合戦略の説明をいたします。目次をご覧ください。総合戦略の全体の構成となっています。「基本方針」、次に「総合戦略の重点」、「基本目標とその施策」という構成になっています。まず 7 ページの総合戦略の重点をご覧ください。総合戦略はご覧いただいたとおり沢山の事業、施策がございます。その中から安曇野市の総合戦略としてはここを重点として取り組んでいきたい、またはこれから重点的に取り組む必要があると考えられるものを掲載しております。本市の強みは、「豊かな自然の魅力」と「安曇野のネームバリュー」にあります。これらを最大限活用することで「しごと」と「ひと」を呼び込み、人口減少を克服して地域の活性化を目指します。重点的に取り組む施策として 6 項目掲げました。まず 1 つ目として農産物の販路を拡大するため、農産物の海外輸出に取り組みます。2 番目として観光客の誘致を図るため、外国人旅行者への対応や山岳観光に取り組みます。3 番目として、新たな雇用を生みだすため、安曇野インターチェンジ周辺の開発に取り組みます。4 番目として若い世代のＵＩＪターンを促進するため、奨学金制度の創設に取り組みます。5 番目として魅力ある子育て環境を実現するため、信州型自然保育認定制度に取り組みます。最後に 6 番目として、コンパクトで利便性の高いまちを目指すため、駅を中心としたまちづくりに取り組みます。この 6 項目を重点施策と位置づけました。それから、総合戦略の事業施策には含まれてはいませんが、今後広域的に取り組みが必要であると記載したものが 3 項目ございます。1 つ目として、外国人旅行者の利便性を高め、地域のグローバル化促進のため、松本空港国際化を見据えていく必要があります。2 つ目として、首都圏との移動時間短縮を図るため、新幹線上田駅との交通アクセスの改善、3 つ目として、日本海沿岸との広域的な交流・連携を図るため、松本糸魚川高規格道路の整備であります。この 3 項目は当市独自で進められるものではございません。長野県また周辺の自治体の皆様と協力をして取り組んでいく課題であります。それでは、8 ページ以降の基本目標と基本的方向について説明いたします。9 ページには 4 つの基本目標について記載してございます。10 ページをご覧ください。ここからは基本目標 1 についてそれぞれ数値目標、基本的方向、施策、具体施策、事業を記載しております。基本目標が 4 つございます。それぞれの基本目標毎に数値目標を設定しました。これは、基本目標の達成を図るための指標として掲げているのが数値目標です。新たな雇用を生みだすという基本目標に対しては、数値目標は年間の新規就農者数、市内企業の就業者数、これを掲げました。基準値と目標値があります。基準値は基本的に平成 26 年度の値、目標値は平成 31 年度の値となります。場合によって基準値は 26 年度の値でないものを用いていることもございます。それに続きまして、基本的方向として、基本目標の内容を示す文章の部分を設けました。始めだけ読み上げますと、「本市のブランド農産物の確立と将来性のある新たな農産物の導入や加工品の開発により、付加価値の高い農業の実現を目指します。農産物の販路を海外に求め、グローバルに展開する農業を目指します。農業を若者世代に魅力ある産業として育てるこ

とで、新規就農を希望する若者の目を本市に向けることを目指します。新規就農者の農業経営が軌道に乗るには時間が必要なので、経営的な支援を実施します。」このような書き方をさせていただきました。前回の委員会の中で、新規就農者の農業経営が軌道に乗るのは大変だというご意見をいただいたため、こういった内容とさせていただきました。以下、この基本的方向について記載がございます。次に 11 ページをご覧ください。この基本目標を達成するための施策です。雇用の基本目標につきましては、農林業の振興施策、商工業の振興施策、観光産業の振興施策、それから安曇野インター周辺の施策ということで、大きく 4 つの施策を載せてございます。「施策１．次代へつなぐ農林業の振興」につきましては、具体施策として（１）ブランド力の強化と都市農村交流の取り組み、（２）農産物輸出に向けた取り組み、（３）農業後継者の確保育成、（４）森林の公益的機能の維持・増進と有害鳥獣対策、ということで農林業に関する具体施策を 4 項目載せています。そしてこの具体施策それぞれにつきまして「ＫＰＩ」重要業績評価指標という形で指標を一つ、場合によっては二つ設けてございます。ブランド力の強化と都市農村交流の取り組みにつきましては、農家民泊受入生徒数というものをＫＰＩといたしまして、基準値は、平成 26 年度の取り組みがありませんので数値はございませんが、31 年度は 1,000 人という形で目標を定めました。その下に具体施策の内容について簡単な説明欄を設けています。農業経営の方向性に応じた経営基盤の見直しを図ります。また、農産物の質と量を両立させ、新技術や地域イメージを活かしてブランド力を強化します。さらに、農産物直売所やインターネットを利用した販路の拡大、農業体験・観光との連携などによる 6 次産業化を推進します。というものです。その下に具体的な事業を記載しました。これにつきましては具体的な事業名とそれを担当する課名を載せています。この総合戦略を策定するに当たり、目標を達成するために新たに取り組む事業をそれぞれの担当課で考えました。そして、新たに積極的に取り組んでいくことが決定したものにつきましては、（新規）という表示で書かせていただきました。逆に申し上げますと、（新規）の表示がないものは、従来から本市が取り組んでいる事業であると御理解ください。このような形で総合戦略が構成されております。全てを説明すると時間がなくなりますので、基本目標毎に要点のみ説明をしたいと思います。18 ページをご覧ください。若者や女性が活躍できるまちをつくるという基本目標です。これにつきまして数値目標、基本的報告、施策がございます。施策の第 1 番目に奨学金制度の創設がございまして、本市には奨学金制度はございませんので、この総合戦略策定を契機に奨学金制度を創設したいと考えています。続いて 25 ページの「基本目標３　安心して出産し子育てできるまちをつくる」ですが、基本的方向としては、「安心して出産し、育児ができる環境を整えるため、妊娠中から出産後までのサポート体制を充実させ、父母の不安の軽減や子どもの健やかな成長発達の支援を進めます。」「就労環境を保障する福祉サービスの提供を通して、子育て支援の充実を図ります。」「子育てに喜びや生きがいを感じ、楽しみながら子育てができる支援体制を充実させ、子どもや子育てを地域全体で見守り、支援する環境づくりを進めます。」となっており、一番下には「1 子ではなく 2 子育てる家庭の増加を目指すため、第 2 子への支援を検討します。」とありますが、従来当市では、第 3 子への支援に重きを置いて、展開してきた事業がございます。第 3 子を産んでいただくためには、第 2 子を産んでいただき、次に 3 子目ということになりますが、まずは 2 子目を設けてもらうことを視野に入れるべきではないかと考えました。独りっ子ではく、まずはお二人なんとか産んでいただきたい、育てていただきたいということでこれから取り組んでいく必要を考えましてここに掲載してございます。最後に 31 ページの「基本目標４　いきいきと暮らせるまちをつくる」ですが、数値目標としては、健康寿命それから住みつづけたいと思う市民の割合というものを掲げました。この中では、基本的方向の下から二番目、本市を象徴する「清

らかな水」を将来世代に受け継ぐため、地下水の保全と利用について調査を進めます、ということで医療、商業施設といった目に見えるものも大事ですが、将来世代にこの清らかな水を受け継いでいくことが、市民の皆様が活き活きと暮らせる生活に繋がるということで、この基本的方向に入れさせていただきました。以上簡単に要点だけ説明させていただきました。よろしくお願いします。

（会長）ありがとうございました。盛り沢山ですが、総合戦略についていかがでしょうか。

（委員）13 ページの具体施策（２）のところで、市内企業の就業者数の目標値約 11,000 人というものを掲げており、全体の計画の中でも大きなウエイトを占めていると思うわけですが、実際、これまでの推移がどうなっているかというのがあると思います。これまでずっと 10,000 人前後で推移してきて、現在の 10,191 人なのか、そうではないかによって、11,000 人という目標の達成可能なレベルが変わると思いますが、その根拠はいかがですか。

（委員）市内の就業者数ですが、この数字は経済産業省がまとめた工業統計にある就業者数を用いています。この数字は、当市が策定している工業振興ビジョンにおける目標値と整合をとってここに掲げたということです。この工業振興ビジョンにおける企業誘致件数の増加は 18 件という数値となっています。

（会長）今の委員の質問は、25 年度の 10,191 人という数字に来るまでの推移を知りたいということですよね。今数字がなければ後でもよいけれどもどうですか。

（事務局）わかりました、いずれにしましても、工業統計上の数字だということ、それから市の工業振興ビジョンという計画上の数値であること、ビジョンの中で企業誘致件数を 18 件と見込み、その一社あたりの平均 45 名の就業者数という積算において、目標数値を導き出しているという背景をお伝えいたします。

（委員）要は、この 11,000 人という数値は、誘致企業の件数から割り出したということですね。

（事務局）はい、そうなります。

（委員）確認ですが、企業側の職の数がどれだけ増えたかという問題と、安曇野でどれだけ働いているのかという両方の要素があって、ここで掲げている 11,000 人という数字は、企業側のポストの数で計画しているということですね。

（会長）ありがとうございました。他はいかがでしょうか。それでは私が 13 ページでお尋ねしたいのですが、商業の振興で新規起業者数が 5 人から 7 人となっていますよね。起業の一方で廃業というものがあると思うのですが、その二つの数字の兼ね合いも大事で、新しく起業した数字がどんどん伸びても、その 2 倍も 3 倍も廃業していくのでは意味のない数字になってしまうので、そこについての裏付けもほしいと思います。

（事務局）廃業ですね。それは原課の方に確認をとってみます。

（会長）それでは、基本的なところはこのあたりでよろしいですか。それでは、最初に人口ビジョンについてご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか

（委員）人口ビジョン 32 ページですが、実際に生み育てられる子供の数を聞いたところとありますが、この質問は、実際にそれぞれの家庭が育てられると思う子供の数という意味でしょうか。それとも、欲しい子供の数でしょうか、どちらでしょう。

（事務局）この設問のときには、始めに、「理想の子供の数は何人ですか」という質問をしています。続いて、「実際に生み育てられる子供の数は何人ですか」という質問をしています。ここでは、「実際に生み育てられる子供の数は何人ですか」という質問に対する回答を使って計算をしています。

（委員）ということは、これは、「実際に育てられると思っている子供の数」と捉えてよろしいですね。であれば、第 2 子に対する支援を強めていくということですね。

（会長）よろしいですかね。第 2 子への支援が妥当というご意見ですね。理想的には何人でしょうか。

（事務局）2.47 人です。
（会長）では 3 人と答えた方が半分くらいいるわけですね。でも実際には 2 人が限度かなということですね。他にはいかがでしょうか。
（委員）大きな質問はございません。戦略の方になってしまうのですが、先程の雇用の目標値ですが、当然ながら企業事情がありますので 1,000 人近い増加は、かなりハードルが高い印象です。その裏には融資とかそういった企業を支えるものがないと、一概に工業振興ということでの目標値ではかなりハードルは高いのではないかと思います。5 年で約 810 ですからね、800 といえば、安曇野市の雇用としてはかなりのものだと思います。本当に新しい工業誘致で多くの企業が来てもらったりして、景気変動もあるなかで、相当なことをしていかないと、と思います。
（会長）ちょっと目標高いのではないかということですね。数字を見ると 32 ページ、33 ページでの人口の推計で、2040 年で 83,000 ということは、要するに人口は減っていくわけですよね。だけど企業に勤める人の数は増やすと言っているわけです。そこは単にずっと同じ人口で行く中で増やすと言っているよりは、相当きついというのは私も同じ意見です。全体として人口が少なくなることを見積もっていくなかで、ここは増やすと言っているわけですからね。かなりハードルは高いなという印象ですね。
（委員）産業誘致、工業誘致、企業誘致はやるべきだと思うのですが、それを第一にするということは間違いだと思っています。むしろそれよりも地場の産業をどうやって創造して作っていくかという方向に目を向けないと、同じことの繰り返しだと思います。地場産業をどうするのか、ここではそれについてあまり深く書いてないですよね。それを是非考えるべきではないのかな、というのが私の意見です。
（委員）私も技術革新というキーワードで言うと、人というのは、雇用という点からみると、特殊なメンバー、特殊な技能、知識技能を持った人たちのニーズがあると思います。インターチェンジの開発云々がありますが、やはり地元の強み、農産物とか水も含めたなかでの工業の発展は、期待ができるところがあるかもしれませんが、新しい産業を呼んできて雇用を増やすところまではいかないような気がします。会長がおっしゃったように、廃業とかそういう部分も見ると、むしろ技術革新の面からしても、目標としても現状に合っていないような気がするなと感じました。
（委員）新たな企業が出てくると、いろいろなバリアが出てきます。例えば、消防法の問題。私どもは新社屋でやっていますけれども、市では歓迎してくれるけれども、全体的には出て行けと言っているのと同じ状態なのですね、例えば、工場を造るときには傾斜をつけろというわけですね。これは油とかいろいろな問題からです。ところが、企業にとって傾斜をつけるということは不可能なのですね。その様な色々な規制がどんどん強すぎて企業はなかなか来てくれない状態です。そういった規制の状態が元に戻るとは思いませんので、観光をどうするかをもう少し全体で大きな目標をたてることが大事ではないかなと思います。
（会長）ありがとうございます。目標については少し無謀かなという意見がでていますけれどもそれは法律の問題ですか。
（委員）松本広域連合の火災予防条例です。
（会長）企業誘致に係るさまざまな規制を考えれば、観光にエネルギーを注いだ方がよいということですね。まあ、ここでも観光についても触れてはいますがね。
（委員）先程の目標 11,000 人という数字の話ですが、別にこれは目標が高すぎるということを言いたかったのではなく、例えば農業関係で見ても、地場産業を育てようという意識は見えるのですが、実際に計算のうえで、10 人から 15 人という具体的な数字を見ると、どうしても地場産業だけではなかなか難しいという意識があって、ここで 11,000 人という数字が出ているのかなと思って。これ自体はもしかしたら市内企業の就業を増やすということを考えざるを得ないと思うのですが、その根拠のとこ

ろがあっさりしすぎていて、どういう形で11,000という数字を実現していくかという根拠がほしいということです。

（事務局）先程の従業員数の件ですが、過去のデータがございます。直近3年間で見ますと、平成23年は8,225人、24年が9,842、25年が10,191という経緯がございます。

（会長）増えているのですね。その背景はどういうものですかね。

（事務局）私が手元で見ている部分としては、平成20年は11,494人というのがありまして、その後9,000人前後になっているのですが、これはいわゆる平成20年にリーマンショックがあり、企業の経済状況が厳しくなってきたことがあるかもしれません。その後、少し持ち直してきているという状態です。細かい分析は分かりませんが、このような感じです。

（会長）担当課ではきちんと把握しているのですね。

（事務局）そうだと思います。

（委員）全体的に盛りだくさんで、枝の部分が大きすぎて、幹が見えにくいという印象を受けました。これは戦略ですから何かを切り捨てて集中していかないといけないと思います。恐らく全国で同じような計画が山のようにあがってきて、従業員数も全部足すと日本の人口を上回ってしまうような状態になってしまうと思います。いくら目標といえども、焦点がぼけないように現実的な目標を設定すべきかと思います。大きな方向感で言えば、雇用吸収は絶対大事ですから、地場産業もしくは特色を出していく部分と、既存企業の雇用吸収力をきちんと高めていくことは方向性としてやるべきであって、先程のような意見をきちんと吸い上げ、条例で解決できるものは徹底的にニーズを汲み上げて解決していく、投資をしたい、拡大をしたいという企業の妨げになっている現実を排除していく必要があると、これが一つ目の幹だと思います。二つ目は、子育て支援と女性のバックアップと、ノウハウを持っている高齢者の活用も非常に重要になってくると思います。それから、生活基盤の充実の部分、インフラの部分ですね、この辺が幹としてまとめるところです。でも政府が言っている2020年までに出生率1.6は、これは本当に現実的なのかなと思うのが正直なところです。本当にインパクトのあることをやらないと、普通にやっても2020年までに1.6は上がらないだろうと思います。でも、安曇野市だけではどこまでできるか難しいと思うのですが、私個人的な意見を言わせていただくと、プレミアム商品券とかふるさと納税とか、言ってみればバラマキですから、こういうことはもう止めて、子育て世帯に一人産んだら1,000万円とか、このくらいインパクトのあることをやらないと無理だと思います。ただ、財政負担もありますので、そこは取捨選択するとしたら大論争になってしまうと思うのですが、そこまでやらないと増えないと思います。それから就業者数は、やはり11,000は少し非現実的かなと、既存企業の支援を含めて、メインのところをもっとしっかりやるべきだと思います。それから、駅を中心としたコンパクトシティですが、これも現実問題として難しくて、駅前を活性化することはいいと思いますが、実際にかなり分散度が高い市だと思いますので、分散を前提に何かを考えた方がむしろ良いのではないかと思います。

（会長）私も同意できるところが多いです。これは総合戦略なので、どうしても総花的になってしまうところはありますが、できればここを優先、ここに傾注してもらいたいというところを皆で合意できればいいと思います。先程観光を優先して考えたらどうかということも出ていましたが、そのような視点で意見を出していただければと思います。それから、人口について83,000人を目標にということですが、説明を聞いていると、これは推計値で、どの前提をとるかで数値が出されており、目標という感じではないように感じました。というのは、いくつかある社人研推計のどれをとるかということではなくて、安曇野市は実は人口をそんなに減らさないですむ要素ががっちりあると思っていまして、それを念頭に、「これぐらいで落ち着くだろう」ではなく「これぐらいの人口を維持していこう」という数字を目標値として出

せると思うのです。要するに今回の話の背景にあるのは、一番過激な話で言うと、日本全国の自治体のうち半分近くが消滅するかもしれない、という話があって、その根本には子供を出産するあたりの年齢の女性がどんどん地方からいなくなっていく、要するに今を 100 とすると、その半分以下に数字が落ちるような自治体は消滅可能性の自治体だ、というレポートが出て大騒ぎになっているわけです。そうはいっても、東京にしても飽和になってきますから、そうなると信州なら信州の中で同じようなことが起こって、この近辺のどんどん過疎化していくところが安曇野とか松本とかにどんどん出てくることが起きるのだろうと、それを考えると、安曇野はベッドタウン化で人が増えていく可能性は大なので、そんなに人口そのものについて悲観しなくともよいのではないかと思うわけです。そんなことを気づいたところですが、どなたかいかがでしょうか。

（委員）私も全く同感で、これだけ魅力がありますので、状況から見てもそんなに悲観する必要はないと感じます。目標の設定の仕方についてですが、端的な目標の立て方、企業的な目から見ると、なんとなく今までの流れから出た目標というように感じます。もう少し上を向いてもいいのではないかと思います。ただし他の委員もおっしゃったように、それを達成するためにはかなり過激なことをやらないと目標は達成できないかなと思います。お金を出すにしても一人目から出せば上がると思いますが、ただ財政負担的な問題もありますので、簡単ではないわけですけれども。

（委員）これをまとめたのは、市でまとめたわけですよね。これに市としての夢はないのですか。みんな現実的なものばかりで、一つもビジョンというか、安曇野市がどうなるかという夢みたいなものはない気がします。例えば、次代へつなぐ農林業の振興を見ても、農家民泊受入の 1,000 人を達成すれば安曇野市の農業が活性化するかといえば、そのひと月ふた月は活性化するけれども、それ以降、例えば冬には何もないですよね。それから目標値を見ても、例えば農業振興の取り組みのなかでは、ブランド力強化のほうが強いと思います。だったらここの重要評価は受入数ではなくてブランド力を測る何かを目標にする方が良いと思います。具体的な事業にしても、市振興農作物産地化事業とはいったい何をやるのですか。日本全国あるようなものをブランド化しようとしても大変ですよね。全国にないようなものを選んで事業化するべきで、新規の玉ねぎ機械化事業がありますけれども機械化してもブランド化になりませんよね。例えば無農薬でやるとか、そういうことを考えないとブランドにはならないと思います。コメにしてもブランド化しようとして今取り組んでいますけれども、やる人とやらない人がいて、安曇野市全体でブランド力のあるコメの作り方を全員でやろうとか、そういった夢みたいなビジョンというのはないのですか。全ての項目に対してみんな世間一般のことを書いてあり、どうしてこういうビジョンのないようなものになってしまったのかなと残念でなりません。

（委員）同感で、戦略といってもせっかくなので目指すべきもの、目指したいところはやはり見据えながらの目標であってほしいなということは感じました。農業というか観光の関係で、これは具体案になってしまうので、狭い話題になってしまうのですが、広域的な連携のところで「松本糸魚川高規格道路の整備」とありますが、ＪＡあづみでスイス村のところに直売所作るという話ですが、今は全国的にハイウェイオアシスのようなものが流行っているみたいなので、インターを降りて行くのも良いのですが、ハイウェイからすぐ入れるような直売所や観光地が儲かっているので、安曇野市独自では無理かもしれませんが、そういう高規格道路と結びつけていければ良いのではないのかなと思いました。

（委員）私も青年部で活動しており、婚活事業を市の依頼で 3 回ぐらい実施し、少しずつ自分たちのできる人口増加の方法を模索しながらやっています。私もこれを見させていただいて思ったのは、凄く難しいことが並んでいて、これを若者に見せても何も変わらないのではないかなという思いです。例えば、第二子にお金を払いますとい

っても、若い世代でお金が無くて結婚に踏み切れないという人はいるのですが、どうして若者がお金が無くて結婚できないかというと、実は生活に対して何にいくらかかるのか分からないから不安なのですよね。例えば20万円の収入があります。そこに2万円補助金が出て22万になったところで、根本的なところが分からない子たちがすごく多いのです。したがって、いくらあげるだけではなく、通常子ども二人の生活だと全国平均的にこれくらいの金額がかかりますよ、食費がいくらで、光熱費がいくら、子どもが三人になるとこのくらいになりますよ、こういうものが分かる説明を、もう少し市として若い世代に発信していただきたいなということがひとつあります。それから出産に関しても、出産費用がかかる、これは皆知っています。ただ、私も二人目の子供が産まれたときに分かったのは、出産費用は三十何万かかりますが、後で国なり市から補助があります。若い人たちは、それらを皆立て替えなければならないと思っています。今 30 万も貯金がなく払えませんと思っています。でも実際病院に申請すれば手続きしてくれて、自分で払わなくともよいですよね。若い子たちは、そういう説明をしてあげて始めて分かることになります。そのように、自分たちは分かっているから皆知っていると思っていることが沢山あると思います。でも実際若い世代の子は、ものを知らなすぎる。これほどインターネット等が普及して、色々なものが簡単に調べられる時代ですが、僕らの世代の方がまだよく知っていたなと、そういう世代なのですよね。人口増加云々になるかは分かりませんが、若い子たちに、結婚したらどのようになっていくかを教える機会を作っていった方が簡単な気がします。

（会長）商工会の青年部で情報を交換するなかで、皆分かっていくということですか。

（委員）そうです。それに婚活事業ですごくわかったことがあって、普通の企業がやっている婚活事業は2時間～3時間なのですが、青年部でやっている婚活は6時間以上かけるのです。これには理由があって、色々な参加者の人たちとその後も連絡を取って言われたのが、なぜ結婚できないかというと、僕たちは話ができません、簡単に話ができるようになったらとっくに彼女作っています。ということです。2時間や3時間で意気投合できるくらいのトーク力があれば、こんなところに来ていません。ということです。要するに時間を人一倍かけてやれば、皆さんカップルになれるのです。青年部の婚活事業ってカップルの成約率もすごく良いのです。要は難しいうわべのことをいろいろ話しているより、根本的な当事者たちの意見を取り入れた方が分かりやすいのではないかなということです。私はよく分からないなという感じです。

（会長）何度も申し上げているように、総合戦略なので、こういうことやります、こういうこともやります、となっていって、先程から出ているように具体的にどうやってやるのかという話は、あまりない。延々と繰り返しているわけです。どこの自治体でも、昔からこうやって計画立てて、それで成功した失敗したという検証もここへきてやっとやるようになりましたが、実はほとんどきっちり成功しなかったから今の日本の状態になっているわけですよね。そういった反省もなしに、また同じことやるのかという気は私もあるけれども、だから色々雑多ななかで、これは優先してやってくれというところを一つ指摘して盛り込んでもらいたいなという気がします。例えば、先程水を大事にしてきれいな水を維持するということがありましたが、維持するのは分かるけれども、維持をしてどうするのかという所がないのです。先程出ているブランド、でもそれがブランドになってこうするのだ、ということはここにはないです。それはこのひとつひとつの実施計画という段階で出てくるのですが、その際には、こうやって皆を集めて意見を吸い上げてという体制にはなっていないです。だから安曇野市でも自治基本条例を皆で一生懸命作ろうとしていますが、そこでも問題になるのは、結局住民が具体的な話になったときにこれはどうだ、こうしたらどうだという意見を言って、それをきちんと吸い上げていくようなシステム

になっていない。これは両方の原因で、役所の方もそういったシステムをつくらないし、住民の方も積極的にそこに参画して意見を言って運営にも意思決定にも加わっていくのだという意識が希薄なのです。その両方が改善されないと、ああしてくれこうしてくれという意見になるけど、それはそのまま我々が思っている通りの施策に繋がっていく保証はないのです。そこでひとつやれることは、いろいろある中でこれに絞ってエネルギーをつぎ込んでくれとか、それを優先してもらいたいというのがこの会議の意思であるというものが必要だと思います。

（委員）今日の人口ビジョンの案と総合戦略の案ということですが、人口はもう 5,000 人も減っちゃうというようなことなのですよね。出生率はあがるということですが、どうして人口減っちゃうかなと思うのですが、やっぱり女性が居なくなってしまうということが大きいのですよね。そのあたりをどうやって安曇野へ引っ張ってくるかが大事ですかね。子供については、二人目より一人目から支援があれば、もう少し増えていくのかなというのが思う所です。総合戦略については、やはり安曇野市では田園風景の維持とブランド化、安曇野市にないものを作ることを進め、安曇野産のコシヒカリやリンゴなんかに限らずもう少しインパクトのある形で進めていったらどうかというところです。

（委員）人口が減るということですが、2040 年に 83,000 人の見込みですが、遡ってみると、1980 年代はそのくらいの人口だったと思うのですね。人口が減るからどうしようという不安感ではなく、人口がそれぐらいの時代もあったと、ただその時と違うのは、人口の構成の問題だと思います。これから高齢者が増える社会のなかで、子供たち世代に負担を背負わせないような施策が大事になってくると思います。大きい施設を作って、その時は雇用が生まれるが将来の維持管理の問題もありますし、介護の負担もありますので、いかに高齢者が元気で過ごしてもらうかということも大事だと思います。安曇野市はとてもイメージが良くて、住むにはすごく良いところだと思います。私も川崎から移住してきたＩターン者ですし、子どもは 4 人いますが、とても子育てしやすい環境だと思います。周りを見ていて、お母さんたちがもっとゆとりを持って生活できれば、もっと住みやすくなると思います。お母さんたちがもっと笑顔になれるような施策を盛り込んでもらえればいいなと思います。市内の企業に勤めるお父さんが「子育て大好きお父さん応援プロジェクト」や「イクメンプロジェクト」みたいな感じでお父さんの子育てを応援するようなものや、お母さんも働きやすいように時間をうまく使えるような就業スタイルを提案できれば良いと思います。放課後の学童クラブもあるにはあるが、もういっぱいいっぱいですし、保育園にも預けて学童にも預けてといったりきたりということも大変ですので、学童クラブを地区ごとに配置したりとか、もっと生活者の視点にたったような施策を重点にしていけたらありがたいなと思います。

（会長）ひとつは、人口が減ってなぜいけないかという意見がありますが、でもそれならば年金が半分になってもいいのですかというような問題が裏についてくるのですね。もうひとつは構成の問題で、今の状況で言えば、若い人が減って高齢者が増えてくるのは覚悟しなければいけない。でもそれにも限度があって、一定の若い人たちの人口は必要なわけです。高齢者だけでやっていくことはできない。安曇野市はこの辺りまでは覚悟してやっていきましょうと、でも若い人が全くいないことはあり得ない。従って、たどり着くのは、単に人口を増やすことではなくて、若い人の定着はどうしても外せない。私は、奨学金はもっと拡充したほうがいいのではないかと思います。あれにもこれにもお金出すよりは、創生としてはそこに思い切ってお金をつぎ込むと、例えば都会へ行った学生が地元へ戻ってきたら返さなくていいとかです。若者が大挙して移動する山がふたつありまして、それは進学と就職だと分かっているわけです。それならば地元の大学へ進学するならお金出しますよ、それで地元に就職するなら返済義務なしにしますよ、こういったことをやればいいんです。

非常に目に見えるやり方だと思います。奨学金は具体的にやるということですから、そろりそろりではなくて、思い切ってやりましょう。第何子にお金を出すということをするなら、数万円とかそういう単位ではなく、もっと「それならいいか」と思えるような額をドーンと出すとか、そういうことが必要だと思います。具体的にそれをどうやるのという話まではいかなくても、どうも前回や今回の議論を聞いていると、最終的に安曇野というブランドをもっと活かす何かを考えてほしい、ということが大方の皆さんの意見かと思いました。安曇野ブランドを活かした施策を思い切ってやってほしい。それは農業かもしれないし観光かもしれないし、広い意味ですけれども。それを我々の意見として加えていくということでいかがですかね。

（委員）その通り、以前の会議でも出ましたが、安曇野らしい風景を醸し出すときに、松本市でやっているような、電柱をゼロにするとか、ああいうのを出して予算化するとか。歩きやすかったり、自転車と共生とか、そんな提案があればインパクトが出るような気がします。

（委員）この委員会というのは、人口をどうやって維持していくのかということを主の目的にしていると思いますので、そうなると観光を育成するにしても安曇野らしさを育てるにしても、どう人口に跳ね返ってくるのかを意識しながら、できれば数値化して出していかないと、よけい総花的になってしまうではないかと思います。

（会長）他にいかがですか。ブランドを活かすというのはなかなか数値化しにくいのですが、文章にそのまま入るかどうかはわかりませんが、何らかの形で反映できるように考えてもらうとして、こんなところでどうですか。次回が事実上最後ということになりますが、よろしくお願いします。ありがとうございました。それでは、意見交換はこれで終了となります。

4　次回有識者会議の日程について　（11：55）

（事務局）ありがとうございました。明日からパブリックコメントに入ります。本日の結果も踏まえながら、ご意見がございましたら、ぜひパブコメの期間中に私どもの方にご意見を頂戴したいと思います。そうすればご意見について担当課と協議をするということで考えていくことになります。次回の会議の日程は、10 月 19 日 10：30 から開催したいと思います。よろしくお願いします。会議録を送らせていただきましたが、修正がございましたら事務局までご連絡をお願いします。以上です。

5　閉会（副会長）

＜終了　12：00＞

以上